

## 令和3年度 第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

### 会議の概要

<b>開催日時</b>		令和3年7月7日（水）13時30分から15時10分まで	
<b>開催場所</b>		多摩区役所 11階 1101～1103 会議室	
<b>出席者の氏名</b>	<b>委員</b>	有北いくこ（多摩区子ども総合支援連携会議） 井上亜紀子（多摩区地域自立支援協議会） 大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会） 小川町子（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 奥沢邦雄（中野島地区社会福祉協議会） 和秀俊（田園調布学園大学） 岸忠宏（多摩区医師会）	小峰信子（生田地区社会福祉協議会） 小山富士子（多摩区子ども会連合会） 佐久間真弓（よみうりランド花ハウス 地域包括支援センター） 松澤明美（多摩区民生委員児童委員協議会） 松本英嗣（多摩区町会連合会） 山岸勝子（多摩区老人クラブ連合会） 吉田紀代子（川崎市多摩区社会福祉協議会）
	<b>多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会・多摩区支え合いのまちづくり推進会議事務局</b>	藤井智弘（多摩区長） 石井崇士（危機管理担当課長） 鈴木智晴（総務課長） 宮本紀昭（企画課長） 徳永のり子（地域振興課長） 齊藤誠（生涯学習支援課長） 本多孝一（区民課長） 中山礼子（保険年金課長） 吉澤朋充（生田出張所長） 倉真佐恵（児童家庭課長） 森田博志（高齢・障害課長） 岩崎美穂（保護1課長） 徳丸千大（保護2課長） 瀧澤浩子（衛生課長） 石原知子（保育所等・地域連携担当課長） 小川幸（学校・地域連携担当課長） 佐藤幹人（道路公園センター管理課長）	加藤弘（地域みまもり支援センター所長） 塚本和秀（地域みまもり支援センター副所長） 高橋みゆき（地域ケア推進課長） 小田真智子（地域支援課長） 林史大（地域ケア推進課企画調整係長） 青柳美登理（地域ケア推進課企画調整係） 杉本光一郎（地域ケア推進課企画調整係）
<b>欠席委員</b>		安陪修司（多摩区商店街連合会） 内田由美子（川崎市多摩区社会福祉協議会地域課） 大津努（稲田地区社会福祉協議会） 木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会）	

<b>議 事</b>	<p>(1) 第5期多摩区地域福祉計画の評価について</p> <p>(2) 第6期多摩区地域福祉計画について</p> <p>(3) 地域包括ケアシステム推進のための多摩区内5地区の取組について</p> <p>(4) その他</p>
<b>傍聴人の数</b>	なし
<b>配付資料</b>	<p>[配布資料]</p> <p>資料1…名簿</p> <p>資料2…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱</p> <p>資料3…多摩区支え合いのまちづくり推進会議について</p> <p>資料4－1…第5期多摩区地域福祉計画 令和2年度評価</p> <p>資料4－2…令和2年度事業評価シート</p> <p>資料5…第6期多摩区地域福祉計画 概要版</p> <p>資料6…地域包括ケアシステム推進のための多摩区内5地区の取組について</p> <p>資料7…地区カルテ</p> <p>資料8…生田出張所オープニングイベント講演会チラシ</p> <p>冊子資料…第6期川崎市地域福祉計画／概要版  第6期多摩区地域福祉計画  みまもる つながる 地域の輪～川崎版地域包括ケアシステムの取組～</p>

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局（高橋課長）	<p>次第1（開会）</p> <p>（会議録作成のため録音の承認）</p>
藤井区長	<p>次第2（挨拶）</p>
事務局（高橋課長）	<p>配布資料の確認</p>
事務局（高橋課長）	<p>次第3（委員の自己紹介）</p>
事務局 （青柳→高橋課長）	<p>次第4（多摩区支え合いのまちづくり推進会議について）（青柳）</p> <p>進行調整役を和委員にお願いしたい旨提案→承認</p>
和委員	<p>進行調整役を務めさせていただきます、よろしくお願いいたします。</p> <p>私は専門が地域福祉になります。住んでいるのは多摩区の飯室谷町会というところで、いろいろ教えていただきながら防災副部長をさせていただいております。</p> <p>住んでいる多摩区の地域福祉の取り組みに微力ながら関わらせていただいておりますとともに、地域福祉の専門家というところもございますので、現場で活躍なさっている皆様方にいろいろとご意見をいただきながら、うまく取りまとめ、調整ができれば、と思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第にしたがいまして議事を進行いたします。</p> <p>議事（1）第5期多摩区地域福祉計画の評価について 事務局より説明をお願いします。</p>
事務局（青柳）	<p>次第5（議事）</p> <p>（1）第5期多摩区地域福祉計画の評価について</p> <p>資料4-1、4-2の説明</p>
和委員	<p>今回初めて御参加いただく方も多く、この評価を聞いて、なんだろう、というところもあるかも知れませんが、資料3のP3、「地域包括ケアシステムとは」と、今日の配付資料「みんなでつくる10年、20年先のまち作り」というカラー冊子のP8、P9をご覧くださいと、地域包括ケアシステムについてイメージが湧きやすいのかな、と思います。</p> <p>P9に記載されている自助・互助・共助・公助というものと、P8の一番下に記載されている、川崎市では全ての市民を対象にする、というところが特徴になります。</p> <p>全ての市民を対象にしているからこそ、今回御参加いただいている委員の皆様方には多様な団体から来ていただいて、いろんな視点から評価をいただき、そして計画を立てていくという大きな枠組みがございますので、お時間があるときに川崎市の地域包括ケアシステムについてご理解いただくと大変助かります。</p> <p>第6期多摩区地域福祉計画の冊子を見ていただくと、アンケート調査の結果、各地区の特徴、課題それに対する取組がまとめられておりますが、こういった内容に対して、第5期の支え合いの会議の中で議論を尽くして、積み重ねて、こ</p>

発言者	発言要旨
	<p>の第6期計画を立てています。</p> <p>この第6期計画の話をする前に、第5期計画の令和2年度評価をするという位置づけになっており、今年度、皆様と議論をしていきます。</p> <p>このような中で、評価の仕方が毎回議論になりまして、私は他の自治体でも地域福祉計画に関わらせていただいているのですが、全国どこでも地域福祉計画の評価は難しいと言われていています。</p> <p>というのは、地域の課題は地域ごとに違いますし、いろんな要因やいろんな団体、いろんな分野が絡み合っているので、なかなか1つの方法では評価ができないというふうに使われています。</p> <p>そんな中、学術的には、評価の手法を4つ組み合わせるといい、と言われていています。</p> <p>1つ目が、「社会指標」といって、先ほど見ていただいた地域福祉計画の冊子にアンケートの結果がありましたが、こういった結果を使いながら、その計画を立てたことによってどういう変化があるかという社会指標で見るという手法です。</p> <p>しかしながら社会指標は、地域福祉計画を立てたから、その数値が変わったとは言いきれない。いろんな要因が絡まって、人の意識や地域の状況が変わっていくので、これだけでは評価はできないけれども、一つの評価軸ではあります。</p> <p>そしてもう1つが「プログラム評価」というものです。これは資料4-1、資料4-2に、色々な取組に対する評価が書かれていますが、各プログラムに対してどのような検討がなされて、どのように取り組むかを記載しています。これがプログラム評価ということになりますので、こちらはもうすでに多摩区の地域福祉計画の評価の中でできている、ということになります。</p> <p>3点目が「業績測定」というもので、こちらは資料4-1であれば、「取組状況」で数値化されるものです。何回やりました、とか、何名参加しました、といったもので、これはよく地域福祉計画で出てくる評価軸になります。</p> <p>「社会指標」「プログラム評価」そして「業績測定」という3つの評価軸での評価は既にできているのではと思うのですが、もう1つ大事な評価があり、「参加型評価」というものになります。この4つ目の「参加型評価」と言うものが非常に大事だと言われていています。</p> <p>これは実際に現場でプログラムに取り組んでいる皆様方と一緒に、資料4-1、4-2のようなものをベースに、色々意見を出し合い、現場に近い意見を評価に反映させていくという手法になります。</p> <p>そのときに現場の方々の御意見を聞いてそのまま終わるのではなく、それを調整・取りまとめする、私のような学術的・専門的な立場が必要だと言われているので、この支え合いの会議で私にその役割をさせていただいている、というところなんです。</p>

発言者	発言要旨
	<p>4つの軸で評価していくのが地域福祉計画で、支え合いの会議はその「参加型評価」をする役割の場なので、ぜひ皆様方が普段色々取り組まれている視点で御意見をいただければと思います。</p> <p>第5期から関わっていただいている有北委員、どうでしょう。</p>
有北委員	<p>支え合いのまちづくりの会議と、その前の福祉計画から長年関わっていますので、初めに発言いたします。</p> <p>評価については、和委員が仰ったように、毎回難しいと思います。</p> <p>どうしても真ん中に寄ってしまうのは、どんな評価でも多いのですが、今回はコロナという大きな出来事があったので、達成度がほとんど3、4、5となっています。3、4、5があるということは1、2もあるはずですが、1、2は全くない。1、2がない中、4、5はあるというのは、全てコロナのせいなのか、それとも他に課題があるのかというところがこの資料だけでは見えてこないという気がします。</p> <p>例えば資料4-2の1ページ目の一番下の「町内会・自治会への加入促進に向けた広報啓発・情報発信」は、達成度は3ですが、貢献度がCとなっています。ここはこの数年大きな課題になっているところだと思うので、なぜCなのか、その辺りの説明をもう少しいただければと思います。</p> <p>それから資料4-1の2の「多摩区こどもの外遊び交流事業」は、私は外遊び交流委員会にも入っていて実際にこの事業に関わっているのですが、コロナ禍でも非常に工夫してうまくいったのではないかと思います。だから、これは「目標をほぼ達成」というより、「大変よくできました」としてもいいのではないかと思います。1月が中止になったのはどうしようもない時期で、11月と9月に実施するときはみんなで頭を悩ましながらしっかり実施できて、参加者もいて、事故もなく、多くの人に歓迎されたということで、二重丸をつけたいなと私は考えています。</p> <p>それから質問ですが、同じ資料4-1の5の、「川崎市地域見守りネットワーク事業」ですが、この事業は社協や民生委員も関わっているかと思いますが、8件の通報がどこからのもので、どういう内容だったのか知りたいと思いました。私は民生委員もやっているのですが、実は民生委員レベルで解決できたのではないかと、あるいはもっと専門機関に繋げることであったのか、区役所レベルで解決できたのか、といったことが知りたいです。</p> <p>次に「多摩区こども相談窓口の案内、周知」です。</p> <p>これはただ周知で終わったのか、あるいは相談件数が上がったのか、というところがこの資料だけでは分からないので、そのあたりを知りたいと思いました。</p>
高橋課長	<p>資料4-1の2、多摩区こどもの外遊び交流事業につきましては、有北委員もメンバーとして参加していただき、事業の達成度について「よくできた」と言っていただきました。行政としては少し控えめにさせていただいている感もありますので、御意見を踏まえて評価について改めて検討させていただきたいと思いま</p>

発言者	発言要旨
	<p>す。</p> <p>資料4-1の5番「川崎市地域見守りネットワーク事業」についてですが、川崎市と提携した新聞の宅配業者、新聞販売店、ガス事業者といった方からの通報を受ける仕組みとなっており、令和2年度は区内通報が8件ございました。</p> <p>通報は地域ケア推進課の方に入り、高齢者であれば高齢・障害課の方で確認し、どこにも該当しない場合は、地域支援課の方で対応しています。</p> <p>内訳は、8件のうち高齢者は6件、60代前半が2件で、その中で実際確認に行ったところお亡くなりになっていた方が1件でした。市と提携して見守りをしている業者さんを中心に、その仕組みの中で実施しています。</p>
徳永課長	<p>町会の関係についてご説明させていただきます</p> <p>令和2年度の事業評価シートということで、昨年度のことについて評価を行ったところでございますが、去年はどの事業もそうですが、コロナ禍の中で制限がある中で、やれる範囲のことをやってきたというところで、貢献度が低いという評価についてはそのあたりの状況等も踏まえて、少し控え目すぎたかもしれないのですが、直接的な貢献が例年ほどではなかった、というところでこういった評価をつけさせていただきました。</p>
小田課長	<p>妊娠期から学齢期以降までの相談はいろいろなところでお受けしておりますが、それらを一括のチラシで案内するというところで作成しています。</p> <p>現段階ではこれを周知している段階で、実際に何件がこのチラシから繋がったのかという確認は非常に難しいという状況です。紹介している相談機関も多摩区だけではなく、県の相談施設もあるため、数値的に今後上がっていくかどうかという見極めは難しいところですが、まず手にとっていただき、こんな窓口があるという紹介をするツールとして作成できたということで、これを広く周知するために配布を行い、またある程度配布を進めてきているということでこのような評価をつけさせていただきました。</p>
有北委員	<p>ここにLINE相談が出ていますね。</p> <p>LINE相談については、実際にLINEで入ってきている相談はありますか。区役所で把握できている範囲で結構ですので。</p>
小田課長	<p>紹介しているLINE相談は裏面に記載があるのですが、神奈川県の方でございまして、QRコードでそのまま繋がるという紹介です。川崎市の方が実際どのくらい相談に繋がったかというのはこちらでは把握しておりません。</p>

発言者	発言要旨
和委員	<p>今の有北委員と事務局とのやりとりを伺うと、評価を出す際、先ほど申し上げた参加型評価を大事にするのであれば、色々な取組、プログラムの評価をしていく中で、現場のご意見がなかなか届いていないところがありますから、取組の取材やワークショップ等で現場のご意見・評価を踏まえて積み重ねていくと、年度末の評価にそれが反映されていくのではないかと感じましたので、第6期ではその辺を丁寧にしていくといいのかなと思いました。</p> <p>次の議題に移りたいと思います。</p> <p>議事（2）、第6期多摩区地域福祉計画について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局（青柳）	<p style="text-align: center;">次第5（議事）</p> <p style="text-align: center;">（2）第6期多摩区地域福祉計画について</p> <p style="text-align: center;">資料5の説明</p>
和委員	<p>今こちらの資料5、概要版を中心にご説明いただきましたが、計画冊子の方にお目通しいただくと、例えば基本目標3ですと、P93に目標と方針が書いてあって、そして個々の取組の枠組みが計画として設定されており、それがどう達成されたのかを評価をしていくという流れになります。</p> <p>今事務局から説明があった第6期計画を毎年度評価していくので、その心づもりをしてご理解いただくと大変助かるなと思います。</p> <p>年度の最後に皆様方から評価に対するご意見をいただきますので、その立場でこちらの計画を見ていただければと思います。</p> <p>今日の配布物で地区カルテというものがあるのですが、計画冊子のP88、「地区カルテを活用した地域づくり」について事務局から説明がありました。このような資料もご用意していますので、「地区カルテってなんだろう」といった素朴な疑問でも構いませんので、何かご質問等はございますでしょうか。</p> <p>多摩区の地域福祉の取組は色々なことをしているので、それを一気に評価するのはなかなか難しい。ぜひ皆様方が実際やっている分野のところで見てくださいと、疑問や問題意識を持って見やすいかも知れません。</p>
松本委員	<p>町会の立場で言いますと、障害のある方、高齢者の方に関しては、皆さんの関心が結構あると思うのですが、色々な技術・能力を持つ方、あるいは若い方等、町会の中で活躍できる可能性がある方について、先ほど「町内会・自治会への加入促進に向けた広報活動・情報発信」について地域振興課長から説明がありましたが、評価シートの内容については、私は妥当だと思っております。新しく町会に加入する方たちが少ないというのが現状だと思います。</p> <p>町会として今のやり方でいいのかという問題がありますが、組織に入りたくないという感じの方が結構多い。「繋がりをもちたいと考える方がいる」事などが分かった、との説明がありましたが、特に集合住宅では隣の人とも挨拶しないとい</p>

発言者	発言要旨
	<p>うケースがあることはお聞きになったこともあると思います。</p> <p>町会に入ったものの活動に対しては消極的なケースも見受けられ、「都会の心の過疎化」を感じる中、色んな行事、取組を行っています。これは非常に大事なことで、町会として色々なことをやっても、その中に出てこないという人が結構います。</p> <p>町会としては福祉も含め、防災とか住みよいまちづくりとか、何とかできないかと色々取り組んでいるのですが、2011年の東日本大震災のあとは、防災訓練などの関心は高かったのですが、だんだんいつも同じ人が出てくるようになってしまう。町会の行事でもだいたい限られた人が出てきて、同じ人が色々な行事に参加しているのではないだろうかという懸念というか、危惧を持っています。</p> <p>それともう1つ、色々な計画、地についての取組がずっとなされていますので、こういうことを継続していくことが非常に大事で、評価についてもやはり実際に現場に行って、適切な評価も加えながら進めていくことが大事なのではないかと思います。私は初めて委員になったので、今までの経緯等はあまり知らないのですが、社会福祉協議会や民生委員との連携などの中で感じていることでもあるので、町会としての苦労などについて申し上げさせていただきました。</p> <p>あともう1つ申し上げますと、先ほど有北さんも民生委員だというお話でしたが、来年また民生委員の改選があります。これもどなたかお辞めになると、後任の方を見つけるのが大変なんです。だからそういうこと等も含めて、参画とはどういうことなのかと思っています。自分が何か障害を持っていたりすると、何とかしてほしい、ためになるようなお話は聞きたい、といったことはよく承知しております。ただそのように助ける側や支援する側になるということも含めて、なかなか現実的には大変だなと思っています。</p>
和委員	<p>松本委員、貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>それでは議事（3）地域包括ケアシステム推進のための多摩区内5地区の取組について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局（杉本）	<p style="text-align: center;">次第5（議事）</p> <p style="text-align: center;">（3）地域包括ケアシステム推進のための多摩区内5地区の取組について</p> <hr/> <p style="text-align: center;">資料6、7の説明</p>
和委員	<p>ありがとうございました。ご質問等ございますでしょうか。</p> <p>どの地区も具体的な素晴らしい取組をしているということがお分かりいただけたかと思うのですが、これを毎年度評価していくということで、委員の皆様方に御意見をいただきたいと思っておりますので、今一度、各地区の取組に関してもご理解いただき、そして地区カルテをご活用いただくと各地区の現状、課題、取組等が非常にわかりやすく、整理されておりますので、こちらもお時間のある時にお目</p>

発言者	発言要旨
	通しいただけると大変助かります。
有北委員	<p>地区カルテに「多摩区でプレーパークをやっちゃおう会」の活動は載っていますか。</p> <p>今さっと見たところ載っていなかったのですが、多摩区の外遊び交流委員会から生まれて、「たまプレ」と呼ばれて中野島と生田と堰と宿河原で活動しているので、プレーパーク活動も子育て支援の一環ですので、ぜひ載せていただきたいと思います。</p> <p>それからこのカラー刷りの地区カルテ、とてもいいと思うのですが、5つ並んだときに、タイトルの生田地区とか稲田地区というのがとても見分けにくいんです。同じ書体で白抜きの文字で、一瞬、自分の地区はどれだろうってすごく悩んでしまう。「〇〇地区カルテ」という白抜きの文字を、各地区で色を分けるとかデザインを工夫していただけると、ユニバーサルデザインにもつながると思います。イラストもみんな同じなので、区別がつかないんです。一瞬見たときに、どの地区なんだろうって思います。</p>
高橋課長	<p>プレーパークをやっちゃおう会につきましては、例えば稲田地区でしたら、堰や宿河原が載っております。</p> <p>カラー刷りのものは川崎市で一括して作っておりまして、共通したもので作った方が見やすいというご意見を受けて昨年度作成したのになります。今後作成する際にはご意見を参考にさせていただきます。</p>
和委員	<p>白黒の地区カルテはその都度アップデートをしていくものですので、有北委員のように色々な方のご意見をいただきながらどんどんアップデートしていくものになっています。カラー刷りのものに関しては市で一括作成したもののなのですが、有北委員がおっしゃるように、自分の地区が分かりやすいというものとても大事だと思いますので、検討していければと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
松本委員	<p>例えば地域資源について、登戸ですと、小学校は1つしかないのですが、学区としては2つあるんです、小学校も中学校も。そういう情報も入れておく方がいいのではないかなと思いました。</p>
高橋課長	ありがとうございます。参考にさせていただきます。
和委員	それでは議事（4）その他について事務局より説明をお願いいたします。
事務局（杉本）	<p>次第5（議事）</p> <p>（4）その他</p> <p>資料8の説明</p>

発言者	発言要旨
和委員	以上をもちまして議事を終了いたします。進行を事務局へお渡しいたします。
高橋課長	和委員、議事の進行ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、地域みまもり支援センター所長の加藤からご挨拶を申し上げます。
加藤所長	次第6（挨拶）
高橋課長	<p>以上をもちまして令和3年第1回支え合いのまちづくり推進会議を閉会いたします。</p> <p>次回は来年2月頃予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>